

国

語

目 次

- 指導計画作成の立場..... 245
- 活用上の留意点..... 246
- 題材一覧表..... 247
- 指 導 計 画..... 248

1. 指導計画作成の立場

(1) 基本的な考え方

精神発達遅滞児は、知的な発達の遅れに伴い、言語の遅滞を示す場合が多い。

子どもたちの実態をみてみても、表出言語や理解言語がほとんどない子どもから、生活に必要な言語がある程度発達している子どもまでと個人差は大きいものの、抽象的な内容のものを理解したり、表現したりすることは、不得手であり、全般的に言語の遅滞が大きい。小学部の子どもたちは、教師や友達の話を書くことはできても、その意味が理解できなかつたり、自分の要求や意志を、表情や身振りで訴えることはできても、見聞きしたことや経験したことを相手に話すことは困難であったりするなど、聞くこと・話すことに関する内容が、十分身につけていない段階である。中学部の段階になると、聞くこと・話すことに関する内容はある程度身につけており、ひらがなをだいたひ読みたり、視写したりできるものの、語句や短い文を読んだり、書いたりすることは難しい。高等部の段階では、語句や短い文を読んだり書いたりすることは、ある程度可能になるが、文章の内容を理解しながら読んだり、句読点やかぎ(「」)などに注意して書いたりすることができるまでには、至っていない。また、標識や領収書といった社会生活に必要なものの意味がよく分かっていない。

ところで、言語が、人間の社会生活の中で果たしていく役割は、大きく分けて次の三つになる。—①伝達の働き：自分のところの中で生じた内容(考えや感情)を互いに伝えあつたり、外部から取り入れたさまざまな情報を交換しあつたりすること。②思考の働き：言語によって、目の前にないものや直接的に経験していないものでも、理解できること。③自己行動調整：声を出さずに自分の心の中でことばを使つたり、他人からのことばによる教示や命令を受けたりして、自分の行動を統制していくこと。— このように、言語は、社会生活に適応するために、必要不可欠なものである。しかし、前述したように、精神発達遅滞児は、言語の遅滞を示し、社会生活を営んでいく上で支障を来たすことも少なくない。

そこで、本校では、言語教育の必要性と、子どもたちの言語の発達から、小学部段階では、「聞く・話す」ことを中心に、中学部段階では、「読む」、「書く」ことを中心に、高等部段階は、「読む」、「書く」ことを中心に、「聞く・話す」ことも含めて、社会生活に必要な言語をそれぞれ指導するための国語の指導計画作成する。

(2) 目 標

- 聞くこと・話すことに慣れ、読むこと・書くことに関心を持つことを通して、日常生活に必要な言語能力を養う。
- 簡単な話の内容を理解したり、聞き手に分かるように話をしたりするとともに、文章を読んだり書いたりすることを通して、日常生活に必要な言語能力を伸ばす。
- 感じたこと、考えたことを正確に話したり、文章にしたりすることを通して、社会生活に必要な言語能力を高める。

(3) 指導計画作成上の配慮事項

- ① 指導内容は、学習指導要領解説書の具体的内容を参考にしながら、子どもの実態に即したものとし、小学部から高等部まで同一題材のものや関連した内容のものは、低い段階の内容から高い段階の内容までを系統的に配列する。
- ② 指導領域は、「聞くこと・話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の3領域とするが、題材においては、それぞれが有機的・総合的に展開できるようにする。
- ③ 題材の配列にあたっては、生活単元学習をはじめ、他教科・領域、季節、行事等との関連を十分考慮する。また、子どもの実態に応じ、小学部の児童には、「聞くこと・話すこと」、中・高等部の生徒には、「読むこと」、「書くこと」を中心にした題材を多く配列する。
- ④ 題材は、生活と関連したもの、社会的必要度の高いものなどの観点から設定する。
- ⑤ 授業時数は、小学部2時間、中・高等部3時間を週時数とし、年間35週で配当する。

2. 活用上の留意点

- (1) 一人ひとりや小集団の実態に応じ、指導内容を選択する。
- (2) 題材名は子どもの実態や指導内容に応じて、児童・生徒に分かりやすいように変更する。例えば、題材「運動会」で、案内状を作ることが中心ならば、「運動会の案内状作り」といったように題材名を変える。
- (3) 言語活動は、あらゆる生活の基盤となっているので、他教科・領域や日常生活の場でも、関連して指導の機会をとらえるようにする。
- (4) 小学部では学級単位、中・高等部では能力別に学習指導を行うことを基本とする。

国語科題材一覧表

	小学部			中学部			高等部				
	低	中	高	A	B	C	A	B	C	D	E
4	あいさつをしよう (P.248)	みんな友だち (P. 248)		自己紹介 (P. 248)			自己紹介 (P. 248)				
5	この音, なあに (P.249)	あてっこ遊び (P. 249)		ことば遊び (P.251)	ことばの決まり (P. 251)		標識や掲示 (P. 253)				
6	お話しこう (P.254)	童話 (P. 254)		童話・物語・詩 (P. 254)			ことば遊び (P. 251)		ことばの決まり (P. 251)		
7	目はどこかな (P.256)	自分の体 (P. 256)		絵日記 (P.258)	日記と作文 (P. 258)						
9	お話ししよう (P.259)	お話し作り (P. 259)		運動会 (P. 261)			運動会 (P. 261)				
10	お話ししよう (P.263)	買い物ごっこ (P. 263)		標識や掲示 (P. 253)			童話・物語・詩 (P. 254)				
11	もしもしあのね (P.265)	電話ごっこ (P. 265)		電話ごっこ (P.265)	電話 (P. 265)		電話ごっこ (P.265)	電話 (P. 265)			
12	まねて書こう (P.266)	年賀状 (P. 266)		年賀状 (P.266)	はがきや手紙 (P. 266)		年賀状 (P. 266)	いろいろな書式			
1	絵カードで遊ぼう (P.268)	かるた (P. 268)		かるた (P. 268)			かるた (P. 268)		(P. 266)		
2	劇あそびをしよう (P.269)	劇 (P. 269)		劇 (P. 269)			劇 (P. 269)				
3	何でも書こう (P.270)	文集 (P. 270)		一年間の思い出 (P. 270)			一年間の思い出 (P. 270)				


題 材	あいさつをしよう	みんな友だち	自 己 紹 介	
学 部	小	小	中	高
学年・段階	低	中・高	A・B・C	A・B・C・D・E
月（時数）	4月（4）	4月（4）	4月（6）	4月（6）
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達や先生とあいさつができるようにする。 ○ 自分の名前や友達の名前が分かり、読んだり書いたりできるようにする。 ○ 相手によく分かるように要領よく自分を紹介できるようにする。 			
主な学習活動・内容		留 意 点	準 備	関連内容
1. あいさつをする。 (1) 先生とあいさつをする。 (2) 友達とあいさつをする。 「おはよう」「こんにちは」 (3) 友達ゲームをする。		<ul style="list-style-type: none"> ○ 指導者が一人ひとり名前を呼び挙手や返事してからあいさつをさせる。言葉のない場合は礼だけでもよい。 ○ 曲の流れる中で合図によって出会った人とあいさつをさせ、多くの友達と接する場をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい曲 ・タンバリン 	<ul style="list-style-type: none"> ・生・交 Ⅰ－1～3 Ⅱ－1・3 Ⅲ－1・2 ・国Ⅱ－4 Ⅰ－10
2. 名前をみつける。 (1) 自分の名前カードをみつける。 (2) 名前カードと人物を結びつける。 (3) 文字カードで名前をつくる。		<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の名前を語形として覚えさせ、友達の名前と区別させる。 ○ 文字カードは少数から始め、次第に数を増やしていく。 ○ 文字弁別ができない場合は特定のしるしの弁別から始める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・名前カード ・文字カード 	<ul style="list-style-type: none"> Ⅰ－17～20 Ⅱ－15～21
3. 自己紹介をする。 (1) 自己紹介カードをつくる。 (2) 先生と一緒に名前を言う。 (3) 一人で名前を言う。 <基本話型> わたしは○○です。 どうぞよろしくお願ひします。		<ul style="list-style-type: none"> ○ 話せなかったり読めなかったりする場合は、自己紹介カードをもたせ、指導者とともに紹介させる。 ○ 敬体を使って友達に聞こえるような音量で話させる。 ○ 聞く態度にも留意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・画用紙 ・クレパス ・絵の具 	<ul style="list-style-type: none"> Ⅲ－17 Ⅲ－4・6 Ⅲ－8・9 Ⅳ－7・8 Ⅳ－5 Ⅴ－5・7
(4) 学年や住所などを言う。 (5) 自分の趣味や近況等を話す。 (6) 家族の紹介をする。 名前・年齢・職業など		<ul style="list-style-type: none"> ○ 住所は○○市○○町○○番地まで正確に覚えさせる。 ○ 一人ひとりの趣味や家族等についてはあらかじめ調べておき、紹介するときの手助けとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・名簿 ・家族の写真 ・声の録音 	<ul style="list-style-type: none"> Ⅴ－8
4. 自己紹介の作文を書く。		<ul style="list-style-type: none"> ○ 能力に応じて近況や趣味、関心のあることなどについて書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テープ ・原稿用紙 	<ul style="list-style-type: none"> Ⅳ－19 Ⅴ－7

題 材	この音, なあに	あてっこ遊び		
学 部	小			
学年・段階	低	中・高		
月(時数)	5月(8)	5月(8)		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音が聞こえる方向を探したり, 音まねをしたりできるようにする。 ○ 音を聞いたり, 実物を見たりして, ある物を他と区別することができるようにする。 ○ 分からないことを質問し, ヒントを手がかりに正しい物を指摘できるようにする。 			
	主な学習活動・内容	留 意 点	準 備 関連内容	
	<p>1. いろいろな音を探す。</p> <p>(1) 音源の方向を振り向いたり, 歩いていったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大きな音, 小さな音 ○ 高い音, 低い音 <p>(2) いろいろな方向の音源を探す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 目隠し ○ 二人組 ○ 特定の音 <p>(3) いくつかの楽器の中から, 鳴ったものを探す。</p> <p>2. ききわけ遊びをする。</p> <p>(1) 音が鳴ったら, 旗をあげたり, 拍手をしたりする。</p> <p>(2) 楽器ひろいをする。</p> <p>(3) 絵カードを取る。</p> <p>(4) 音をまねる。</p> <p>(5) ストップ遊びをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 聞く手がかりばかりでなく, 音源の場所に印を付けたり, 色分けしたりしておく。 ○ 探し出したら, 吹かせたり, たたかせたりして, その音だったか確かめさせる。 ○ 最初は二方向から始め, 次第に, 方向の数を増やしていく。 ○ 普段よく聞いている楽器を準備する。 ○ 2音の聞き分けを中心に行わせる。 ○ 衝激音(たいこ, シンバルなど)と連続音(ラッパ, 呼び子など)を, 比べさせる。 ○ 音色が異なったり, 似たりしている楽器を使い, 同じものを取らせたり, 絵カードを選ばせたりさせる。 ○ 教師がまねてみせたり, 動作をつけていわせたりする。 ○ ある音が鳴ったら, 止まるように約束させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オルゴール ・ベル ・たいこ ・ラッパ ・呼び子 ・カスターネット ・シンバル ・鈴 ・カセットレコーダー ・旗 ・絵カード 	<ul style="list-style-type: none"> ・国Ⅰ-6 7 Ⅱ-4 Ⅰ-7 Ⅰ-6 7 Ⅰ-4 Ⅱ-4

主な学習活動・内容	留意点	準備	関連内容
3. 音あて遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 動物(犬, 猫, 牛, ぶた, ニワトリなど) ○ 乗物(自動車, 汽車, 飛行機など) ○ 環境音(時計, 台所など) ○ 自然音(雨, かみなり, 風など) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ テープを流し音を聞かせ, 写真や絵カードを取らせたり, ことばで応答させたりする。 ○ 音あてをさせたら, お面をかぶらせてまねをさせたり, 関連するリズムをさせたりして, あてたものの特徴を確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カセットレコーダー ・写真 ・絵カード ・面 	<ul style="list-style-type: none"> ・国Ⅱ - 4
4. あてっこをする。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 袋の中へ手を入れて触ったり, ヒントを聞いたりして, あてる。 (2) 実物や絵カードの一部を見てあてる。 (3) ヒントを聞いてあてる。 (4) ふたつの似ているもののちがいを比べてあてる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ あてっこをする前に, あてるものを見せたり, 触らせたりしておく。 ○ はじめは, 見て連想した品物の名前を自由に言わせ, その中からしぼらせていく。 ○ 形や用途など比較のできるものをふたつ組み合わせて考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実物 ・おもちゃ ・文房具 ・絵カード 	<ul style="list-style-type: none"> Ⅱ - 4 8 5 7 Ⅲ - 6
5. なぞなぞごっこをする。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 第1ヒントで連想した品物を発表する。 (2) 第2ヒントを書いて, (1)で発表したものから違うものを取る。 (3) 第3ヒントを聞いて, 正解を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 経験したことや, 食べ物, 乗り物など, どの子も知っている身近なものの中から, 幅広く仲間集めができるものを課題とする。 ○ 第3ヒントで正解がひとつにしぼられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵カード ・正解カード ・かご 	<ul style="list-style-type: none"> Ⅱ - 7 Ⅲ - 2 6
6. 「はい」, 「いいえ」遊びをする。 <p>例バナナ</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ヒントをことばで聞き, 予想するものを答える。【^{ヒント}食べるもの】 (2) 質問する事項を聞き, 質問する。質問「色」「形」 (3) 質問されたら, 「はい」, 「いいえ」で答える。質「赤」答「いいえ」質「黄」答「はい」 (4) 次に質問することを聞き, 質問する。質「丸」答「いいえ」質「長四角」答「はい」 (5) 正解を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題を追求させる順序として, 形, 色, 大きさなど, どの面から追求させればよいか, あらかじめ考えておく。 ○ 課題は, ほとんどの子どもが知っていることがらや事物から選ぶ。 ○ 子どもたちが少し考えれば, 正解が導きだせ, 喜びを味わわせることができるような課題にし, 複雑なものは避ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵カード ・ヒントカード ・実物 	<ul style="list-style-type: none"> Ⅲ - 2 3 5 6

題 材	こ と ば 遊 び		こ と ば の 決 ま り	
学 部	中	高	中	高
学年・段階	A	A・B	B・C	C・D・E
月(時数)	5月(12)	6・7月(10)	5月(12)	6・7月(10)
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ○ ことばあつめやしりとり遊びを通して、語いを増やしことば遊びができるようにする。 ○ ことばの決まりがわかり、促音や長音などの含まれた語句が読めるようする。 ○ 促音や長音などの含まれた語句や短い文を読んだり、書いたりする力を身につけさせる。 			
主な学習活動・内容	留 意 点	準 備	関 連 内 容	
1. いろいろなことばをあつめる。 (1) なかまあつめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 動物 ○ くだもの ○ 花 ○ 乗り物 ○ はじめに○のつくことば ○ はんたいのことば (2) ごっこ遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 電車ごっこ ○ ままごとごっこ ○ 音あてごっこ (3) しりとり遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> ○ しりとり遊びの歌 例 こぶたーたぬきーきつつき 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 動物園や遊園地、お店屋さんなどに行った時にどんなものを見たか発表させ、いろいろな物の名前を知っていることに気づかせ、ことばあつめに関心をもたせる。 ○ いろいろなお店屋さんを撮ったスライドやVTRから、商品が種類別になかま分けされていることを知らせる。 ○ 適宜に役割を交代させて、実態に合ったことばを引き出し、語いを増すようにさせる。 ○ 能力に応じて書く指導も行う。 ○ 絵カードと文字カードを対応させて、絵と文字のマッチングを図るようにする。 ○ 動物のお面をつけさせて、しりとり遊びへの抵抗感を和らげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動物のぬいぐるみ ・くだもの ・生花 ・絵カード ・文字カード ・スライド ・VTR ・箱車 ・カセットレコーダ — ・絵カード ・文字カード ・オルガン ・動物の面 	<ul style="list-style-type: none"> ・国Ⅱ－5 Ⅳ－4・5 Ⅰ－14・20 Ⅱ－6 ・算Ⅰ－2・3 ・4 ・生・遊 Ⅱ－1 ・算Ⅱ－3 ・図Ⅰ－6 ・国Ⅰ－18・20 ・国Ⅱ－20 ・国Ⅲ－15 ・生・交 Ⅰ－1・2 ・国Ⅱ－15・17 	
2. ことばの決まりについて話し合う。 (1) ひらがなを読んだり、書いたりする。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の名前と友だちの名前 ○ 自分の知っているもの (2) かたかなを読んだり、書いたりする。 <ul style="list-style-type: none"> ○ パン、メロン、ジャムなど 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ひらがなとかたかなの単語カードと具体物、絵などを対応させて、取扱った文字については、五十音表に書き入れさせる。 ○ 書くことの困難なグループには、なぞり書きや複写をさせる。 ○ 給食などの身近な場から導く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがな ・かたかなの単語カード ・絵 	<ul style="list-style-type: none"> ・国Ⅱ－20 ・国Ⅲ－15 ・生・交 Ⅰ－1・2 ・国Ⅱ－15・17 	

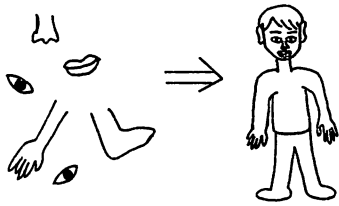
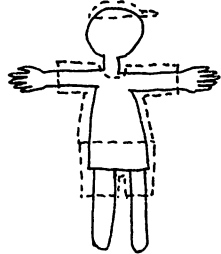
主な学習活動・内容	留意点	準備	関連内容
(3) 正しいかなづかいについて調べる。 ○ 長音, よう音, 促音, はつ音	○ 音節に気をつけて, 正しく発音できるように口の動きをまねさせながら言わせる。 ○ 身近にある言葉を取りあげる。	・音節カード ・文字カード	・国Ⅰ-20 Ⅱ-14 15 17
(4) 外来語やローマ字を読んだり, 書いたりする。	○ 日常よく目に触れたり, 使ったりする立て札や標識の外来語やローマ字を提示して知らせる。	・立て札 ・標識	Ⅲ-12 Ⅲ-11 V-10 13 16
(5) 送りがなのつけ方を調べる。 ○ 赤㊦, 行㊧など	○ 送りがなのつけ方や, 句点, 読点の使い方などは, 日課帳の文や作文などから取り扱う。	・日課表 ・作文	Ⅱ-14 Ⅳ-18
(6) 句点(。)読点(,) (「」) など表記の使い方を調べる。	○ 「ばく〇学校〇行く。」などの身近な短文を使って取り扱い, 日常の会話の中で使用していることに気づかせる。	・短文を書いた短冊カード	V-20 Ⅳ-16
(7) 助詞の使い方を調べる。 ○ 助詞「を, は, へ」などの読み, 書き, 発音の練習	○ 「ばく〇学校〇行く。」などの身近な短文を使って取り扱い, 日常の会話の中で使用していることに気づかせる。	・短文を書いた短冊カード	Ⅳ-20
(8) 敬語の使い方を話し合う。 ○ 尊敬語, 丁寧語など	○ いろいろな場を設定して, 劇化して動作と関連づけながら, 正しい使い方を練習させる。	・文字カード	V-5 8 9 Ⅲ-8
(9) ことばの種類とはたらきを調べる。 ○ 物の名前を表すことば ○ 動き(動作)を表すことば ○ 様子を表すことば ○ 文と文をつなぐことば	○ 1の(1)のなかまあつめの学習と関連づけて取り扱う。 ○ 動作の模倣化や, それぞれの様子を表す場を設定して, ことばを引き出す工夫をする。	・☆, ☆☆, ☆☆☆の教科書 ・文字カード	・音Ⅲ-5 ・国Ⅱ-9 17 Ⅲ-9 ・音Ⅰ-21 ・生・役 Ⅲ-4
(10) 短い文を読んだり, 書いたりする。 ○ 基本文型 ○〇は〇〇です。 ○〇は〇〇しました。など ○ 応用文型 ○〇は〇〇して, 〇〇です。 ○〇と〇〇は……だ。など	○ 日記帳の文章や, これまでの文集などを取扱って, 関心をもたせる。 ○ 日記文や作文などから, 文型を取り入れて書いていることに気づかせ, 読むことや書くことに自信をもたせる。	・日記帳 ・文集 ・文型を書いた短冊カード	・国Ⅱ-17 21 Ⅳ-16 18 V-20

題 材	標 識 や 掲 示		
学 部	中	高	
学年・段階	A ・ B ・ C	A ・ B ・ C ・ D ・ E	
月(時数)	10月(12)	5月(7)	
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日常よく目にする標識、看板、立て札、表示などに関心をもつことができるようにする。 ○ 日常生活や社会生活に必要な標識、看板、立て札、表示などの意味が分かるようにする。 ○ 標識や表示などに対応した行動がとれるようにする。 		
主な学習活動・内容	留 意 点	準 備	関 連 内 容
1. いろいろなしるしを調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 教室や廊下で見るしるし ○ 屋外や校庭で見るしるし ○ そのほかの所で見るしるし 2. シールやしるしを集める。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 動物や花などのシール集め ○ 色別、形別の積み木集め ○ 名札、係札などの札集め 3. 道路標識について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 横断歩道、通行止 止まれ、徐行など 4. 学校内の標識や掲示物について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校案内図 ○ 掲示板 5. 看板や掲示、表示などについて読み方や意味を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 郵便局 ○ 病院 ○ 駅 ○ ○○○の店 ○ 入口、出口、化粧室など ○ (ON OFF, EXIT) (TOILET) ○  切り口 6. 標語やポスターをかく。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 作品制作と展示 	<ul style="list-style-type: none"> ○ カバン棚やくつ箱などで自分の所にはどんなシールや印がついているか発表させ、印に関心をもたせる。 ○ おもちゃ、シール、名札など興味のある物を使って、分類や整理など意味づけした分け方をさせる。 ○ 他教科、領域との関連を図る。 ○ 他領域、学校行事(交通安全教室)などの学習と関連づける。 ○ 場所と標識を対応させて、標識や掲示について意味を理解させる。 ○ いろいろな標識の中から、特に生命の安全に関するもの、日常生活に不可欠なものを、子どもの実態に応じて取り扱うようにする。 ○ ローマ字や英語、かたかななどで書かれた看板や表示なども取り扱う。 ○ いろいろな説明書などに示してある表示も取り扱う。 ○ 標識や看板、掲示などについては、実際に町や校内の見学をして、掲示や看板などを読ませ、対応した処理や行動のとり方を指導する。 ○ 作品の展示から、標語やポスター、掲示物などへの関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シール ・ラベル ・名 札 ・花壇の札 ・おもちゃ ・積み木 ・名 札 ・整 理 ・いろいろ な標識 ・学校案内 図 ・掲示板 ・掲示物 ・☆☆☆の 「標識」 ・説明書 ・メモ帳 ・筆記用具 ・図標識 ・文字標識 ・はさみ ・缶きり ・展示板 ・作品 	<ul style="list-style-type: none"> ・国Ⅰ-17 18 Ⅱ-12 13 Ⅲ-11 ・算Ⅰ-2 3 4 ・算Ⅱ-2 ・生・安 Ⅱ11~14 ・生・安 Ⅲ11~15 ・社Ⅳ-14 15 19 20 27 ・社Ⅴ-9 30 32 ・国Ⅳ-11 13 14 Ⅴ-10 13 16 ・職Ⅴ-14 ・美Ⅳ-6 ・美Ⅴ-5

題 材	お話しこう	童 話	童 話 ・ 物 語 ・ 詩		
学 部	小	小	中	高	
学年・段階	低	中 ・ 高	A・B・C	A・B・C	C・D・E
月(時数)	6月(8)	6月(8)	6月(8)	10月(12)	9月・10月(15)
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵本などを見て、身近な乗物や動物などの名前を言ったり、好きなものをさがしたりすることができるようにする。 ○ 簡単な紙しばいを見たり、童話を聞いたりして、その内容のあらましが分かるようにする。 ○ 簡単な物語や詩を聞いたり、読んだりして、感想を話したり、書いたりすることができるようにする。 				
主な学習活動・内容		留 意 点		準 備	関 連 内 容
1. 絵本をみる。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 乗 物 ○ 動 物 ○ おやつ ○ 家 ○ 仕事 など 2. 読みたい絵本を読む。 (1) いろいろな絵本を集める。 (2) 読む本を決める。 (3) 絵本を読む。 (4) 自分の読んだ絵本について発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 何の絵本 ○ 絵本の紹介 ○ おもしろかったところ 3. 紙しばいをみる。 (1) 題名や登場人物について話し合う。 (2) 見たり聞いたりする。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 前半の部分 ○ 後半の部分の予想 ○ 後半の部分 (3) おもしろかったところを発表し、動作化する。		<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵本は、子どもたちが興味・関心を持ち、よく名称を知っているものを選ぶ。 ○ 絵本を読みながら、擬音をテープで流したり、実物やおもちゃを提示したりする。 ○ 読みたい絵本を集めさせ、種類ごとに分けさせる。 ○ 読む本が決まらない子には、教師と一緒に搜したり、いくつか読んであげたりする。 ○ 絵本に出てきた人や物について絵をかかせたり、動作化させたりして発表させる。 ○ 子どもたちの知っている話や興味・関心のある話を選ぶ。 ○ 登場人物が次どうするか(どうなるか)予想させ、話を聞こうとする意欲を高める。 ○ 後半どうなるかを予想させ、予想と実際とどうだったか確かめさせて、最後まで意欲を持たせる。 		・絵本 ・カセットレコーダ — ・実物 ・おもちゃ ・絵本 ・紙しばい	・国I-14 15 16 II-2 3 II-2 3

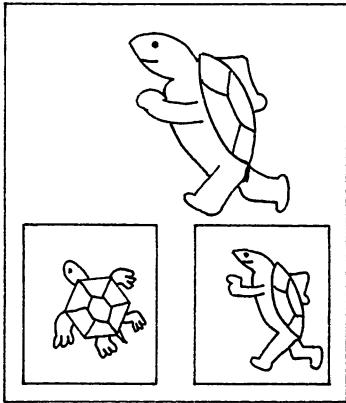
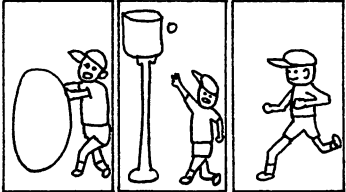
主な学習活動・内容	留意点	準備	関連内容
<p>4. 童話を聞く。</p> <p>(1) 題名や登場人物について話を聞く。</p> <p>(2) 童話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 録音 ○ 先生の朗読 ○ 友達の朗読 <p>(3) 感想を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 登場人物 ○ おもしろかったところ <p>(4) 場面の様子やあらすじについて話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの能力に応じて、作品を選定する。 ○ 童話の主な場面を絵で提示して、話の筋が分かりやすいようにする。 ○ 同じ童話を、繰り返し聞かせ、子どもたちが興味・関心を持ったところを読ませる。 ○ 言葉や動作で自由に表現させる。 ○ おもしろかったところなどは絵にかかせて、発表させる。 ○ TPや絵で、いくつかの場面をあらすじにそって示し、話し合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・童話 ・絵 ・カセットレコーダー — ・OHP 	<ul style="list-style-type: none"> ・国Ⅱ-1 Ⅲ-1
<p>5. 童話や物語を読む。</p> <p>(1) 読みたい童話や物語を準備する。</p> <p>(2) 表紙や目次を見て、話の展開を予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 登場人物 ○ 話の内容 <p>(3) 童話や物語を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 音読 ○ 黙読 <p>(4) 読んだ本について、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 話のあらまし ○ おもしろかったこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○ はじめは話の筋の簡単な童話や物語を読ませる。 ○ 登場人物や話の展開を予想させ、読むことへの意欲を高める。 ○ 予想したことを文や絵にかかせ、考えていることを明確にさせる。 ○ 友達と一緒に読ませたり、一人で読ませたりさせる。 ○ 発表したことを文にまとめさせ、整理しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・童話 ・物語 	<ul style="list-style-type: none"> Ⅳ-1
<p>6. 詩を読んだり、書いたりする。</p> <p>(1) 詩について話をきく。</p> <p>(2) 詩を聞き、感想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ おもしろかったところ ○ 童話や物語と違うところ <p>(3) 詩を読む。</p> <p>(4) 詩を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 詩のおもしろさに興味、関心を持たせるため、身近な事を題材にした詩をいくつか聞かせる。 ○ 思ったことを自由に発表させ、詩を読むことを意欲づける。 ○ 詩の形式にあまりあてはめず、詩を読ませたり、書かせたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・詩 	<ul style="list-style-type: none"> Ⅴ-1

題 材	目 は ど こ か な		自 分 の 体	
学 部	小			
学 年	低		中 ・ 高	
月(時数)	7月 (4)		7月 (4)	
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身体を動かして、乗り物や動物などの模倣ができるようにする。 ○ 教師などの簡単な指図を聞いて、身体の各部位を触ったり、名前を言ったりすることができるようにする。 ○ 身体で足りない部位を指摘して、その部位の名前を読んだり書いたりすることができるようにする。 			
主な学習活動・内容	留 意 点	準 備	関 連 内 容	
<p>1. 音楽に合わせて、いろいろな身体部位を動かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 歩 行 <ul style="list-style-type: none"> ・ ロボット ○ 走 <ul style="list-style-type: none"> ・ ヘリコプター ○ しゃがみ歩き <ul style="list-style-type: none"> ・ カ ニ ○ 四つばい歩き <ul style="list-style-type: none"> ・ 猫 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 乗り物や動物など、興味・関心のあるものまねをさせる。 ○ 手や足を曲げずにのばしたままにさせ、まねをさせる。 ○ 手を横に広げさせたり、ぐるぐる回させたりする。 ○ 両手をはさみにして、横歩きをさせる。 ○ お母さん猫、赤ちゃん猫にさせ、高ばい歩きや四つばい歩きをさせる。 ○ このほか、両足とびや片足とび、横転などが考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カセット ・コーダー ・面 ・絵カード 	<ul style="list-style-type: none"> ・国Ⅰ-4 <li style="padding-left: 20px;">7 Ⅱ-4 	
<p>2. いろいろな身体部位を触る。</p> <p>(1) 模倣をする。</p> <p>(2) 目を閉じて、触られた部位を当てる。</p> <p>(3) 触ったり、触られたりした部位の名前を言う。</p> <p>(4) いろいろな指示に従い、各部位を触る。</p> <p>☑「ひざを2回たたきなさい。」 「手を頭に置きなさい。」など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ はじめは、身体部位の名前にふれず、模倣をさせる。 ○ 分かりやすい部位(頭、手、目、口など)から始め、次第に細かい部位(髪、つめなど)に触る。 ○ 自分の各部位を触ったり、友達や教師に触らせたりして、身体部位の認識を高めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵カード (身体各部位) 	<ul style="list-style-type: none"> Ⅱ-4 Ⅰ-4 7 	

主な学習活動・内容	留 意 点	準 備	関連内容
<p>3. 人型に服を着せたり，顔をかいいたりする。</p> <p>(1) 足りない部分の名前を言ったり，かいたいする。</p> <p>(2) 顔や手足のカードを組み合わせて，人型を作る。</p>  <p>(3) 人型に服を着せる。</p>  <p>(4) 身体各部をひらがなで書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 服を着させたり，顔をかせたりして，身体各部位の名前や形などをはっきりさせる。 ○ 自分の各部位を触らせたり，名前を言わせたりして，足りない部分を補わせる。 ○ 鼻を上下逆さにしたり，耳を左右逆にしたりすることがあるので，友達の色や手本を見せて，その付き方に注意を向けさせる。 ○ 服や帽子を人型につけさせることで，身体部位の大きさや形に気づかせる。 ○ 場合によっては，人形に服を着せさせて，身体各部位の関係を確かめさせる。 ○ 能力に応じて，カードを取らせたり，なぞりをさせたりして，身体各部位と名前を結びつけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人 型 ・服 ・身体各部位の絵カード ・プリント 	<ul style="list-style-type: none"> ・国Ⅱ - 4 5 14 13 19 21 Ⅲ - 15

題 材	絵 日 記	日 記 と 作 文	
学 部	中	中	
学年・段階	A	B ・ C	
月(時数)	7月(6)	7月(6)	
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日常生活で経験したことを、教師と一緒に、絵にかいたり、文に書いたりすることができるようにする。 ○ 日常生活で経験したことを、簡単な文に書くことができるようにする。 ○ 日常生活で経験したことを、簡単な文にまとめることができるようにする。 		
主な学習活動・内容	留 意 点	準 備	関連内容
1. 絵を見て話をする。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 食事場面、プール等 2. 絵日記をかく。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 経験したことを絵にする。 (2) 自分の絵について話をする。 (3) 絵についての文を書く。 3. 日記を書く。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 経験したことを話し合う。 (2) 簡単な文に書く。 (3) 日記を書く。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 月日、曜日、天気 ○ できごと 「いつ・どこで・だれが・どうした」 4. 作文を書く。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 題を決める。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 水泳、宿泊学習など (2) 中心に書くことを決める。 (3) 書く順序を決める。 (4) 文を書く。 (5) 文を読みなおす。 (6) 友達の前で発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日常生活の中で興味ある場面を取り上げ、身振りや手振りを取り入れて絵をもとに話をさせる。 ○ 文字の書けない生徒には絵だけかかせる。文にできない場合には、話しことばを簡単な文に書き、なぞり書きや模写等をさせる。 ○ 自由な話し合いの中から、一語文や一行文を書きとらせる。 ○ 能力を考慮して、まず目の大きさなどを工夫した用紙を用意する。 ○ 日付の特別な読み方についても取り扱う。 ○ カードを使用することによって基本文型を作る手助けとする。 ○ 初めはどの生徒にも共通するような題材を選んで短い文を作らせる。 ○ 接続詞を使わせることによって、文の順序をわかりやすくさせる。 ○ 書いた文を読み返させることによって誤字や脱字を見つけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵 ・ クレヨン ・ 色えんぴつ ・ 紙 ・ 原稿用紙 ・ 基本文型カード ・ 原稿用紙 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国Ⅱ-2 Ⅱ-17～19 Ⅱ-21 Ⅲ-14～16 Ⅳ-15, 16 Ⅴ-20 Ⅳ-15～19 Ⅴ-18 Ⅴ-21～23

題 材	お話ししよう	お話し作り	
学 部	小		
学年・段階	低	中・高	
月(時数)	9月(8)	9月(8)	
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 簡単な質問に応じ、絵カードを指したり、答えたりできるようにする。 ○ 具体物や絵カードの内容を、簡単な言葉で話すことができるようにする。 ○ 絵カードを見たり、動作化したりして、あらましを話したり、順序どおり並べたりすることができるようにする。 		
主な学習活動・内容	留 意 点	準 備	関連内容
1. 問答遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 名 前 ○ 遊 び ○ 好きな食べもの ○ あいさつ など 2. 一語文で話す練習をする。 <p>(1) 教師が指示した絵カードを選ぶ。</p> <p>(2) 教師が示した実物や絵カードの名前を言う。</p> 3. 二語文で話す練習をする。 <p>(1) 具体物を使って教師のまねをする。</p> <p>例 「犬が歩く」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「犬が」と言うと同時にぬいぐるみの犬を手で持ち上げる。 ○ 「歩く」と言うときに犬を手でかかえて歩かせる。 <p>(2) 絵カードを使って教師のまねをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 絵カードを指差して、発話し、動作をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実物や写真・絵カードを見せ、答えさせる。 ○ 声が出ない子には、該当するものを選ばせたり、指差しさせたりする。 ○ 絵カードは、子どもたちがよく知っているものの中から選ぶ。 ○ 絵は、見えていて、答えが一つになるような単純なものにする。 ○ 二語文で話をさせる場合、課題は、普段子どもたちが接したり、使い慣れたりしている事物やことばとする。 ○ 教師がした後、同じようにさせる。 ○ ことばは、動作を基礎にしていることから、ここでは、ことばよりも動作を中心に指導する。 ○ 絵カードを指差しながら、動作もさせる。 ○ 最終的には、絵だけをみて、一人で、できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実物 ・写真 ・絵カード ・実物 ・絵カード ・実物 ・絵カード 	<ul style="list-style-type: none"> ・国Ⅰ-11 12 13 Ⅰ-9 4 Ⅱ-5 6 7 8

主な学習活動・内容	留意点	準備	関連内容
<p>(3) マス目に積み木を一つずつ入れながら文を作る。 例 「かめが走る」</p>  <p>(4) 絵だけをみて文をつくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵の下にその単語の数だけマス目を作っておき、その中に上の絵と対応する絵をかいておく。 ○ はじめに教師がやってみせて、そのあとで、子どもに一人でさせる。 ○ 文作りが中心になるが、子どもが、興味・関心を持って学習できるように、 したら、動作をさせたり、絵をかかせたりする。 ○ うまくできない時は、(2)をもう一度やらせてみる。 ○ 誤った場合は、マス目をみせて、文を作らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵カード ・積み木 	
<p>4. ききとり遊びをする。</p> <p>(1) 簡単な話を聞く。 (2) 質問に答える。 例 話「太郎君はかけっこで1番になりました。」</p> <p>5. お話作りをする。</p> <p>(1) 簡単な話を聞く。 例 話「太郎君はかけっこで1番になりました。」</p> <p>(2) 話の内容にあった絵カードを選ぶ。 例 「かけっこで」</p>  <p>(3) 絵カード3枚を並べて話を作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話を聞いて分からないときは、絵カードを見せたり、動作で表わしたりする。 ○ 運動会に関連した話や子どもたちの興味・関心のある話を準備する。 ○ はじめに、二語文で慣れさせてから、三語文以上に入る。 ○ 話が分からない時は、動作化させたり、文を区切ったりさせる。 ○ 似たような内容の絵カードを準備し、その中から選ばせる。 ○ 文は、3枚のカードで説明できるように、あらかじめ作っておく。 ○ 文の一部を少しずつかえていきお話作りに慣れさせる。 ○ 絵カードを3枚並べるのが難しい時は、文でヒントを与えたり、動作化させたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵カード 	<ul style="list-style-type: none"> ・国Ⅲ-2 6 3 Ⅲ-2 3 6 5

題 材	運 動 会		
学 部	中	高	
学年・段階	A・B・C	A・B・C	D・E
月(時数)	9月(12)	9月(12)	9月(9)
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師や友達と一緒に言葉のやりとりをしながら運動会ごっこができるようにする。 ○ 運動会でよく使われる用語の意味がわかり、話したり読んだりできるようにする。 ○ 簡単な案内状を書いたり、運動会についてまとめたりしながら、大事なことを落とさずに順序よく伝えることができるようにする。 		
主な学習活動・内容	留 意 点	準 備	関 連 内 容
<p>1. 運動会ごっこをする。</p> <p>(1) VTRや写真をみる。</p> <p>(2) まねっこ遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ フレーフレー○組 ○ 三三七拍子 ○ よーい、どん <p>2. 運動会の種目を調べる。</p> <p>(1) 種目カードを選ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 具体物 ○ 絵カード ○ 単語カード <p>(2) 種目名を読む</p> <p>例 かけっこ → かけっこ</p> <p style="margin-left: 40px;">からけこ → かけっこ</p> <p style="margin-left: 40px;">お○えん → おうえん</p> <p>(3) 種目紹介をする。</p> <p>「～をします。がんばります。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師や友達と一緒に運動会の様子をみせて、楽しい雰囲気を楽しむ。 ○ ごく簡単な言葉を身振りを通しながらまねさせる。 ○ 赤組と白組にグループを分けて応援やかけっこの競争をさせたり、旗やポンポンなどを赤白に分けさせたりして赤白の弁別ができるようにする。 ○ 選択にあたっては、その種目を用いる用具を呈示したり、絵カードを呈示したりして種目を理解させ、次第に語句としての種目名に興味を持たせていく。 ○ 種目名は単語カードや文字カードを使ってマッチングをさせたり読ませたりしながら語形として意識づけていく。また文字の順番を入れかえたり、脱字をつくったりして、文字への意識づけを図る。 ○ 紹介の内容は能力に応じて変えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・VTR ・写 真 ・笛 ・応援旗 ・ポンポン ・ハチマキ ・帽 子 ・種目で使う用具類 ・絵カード ・単語カード ・文字カード ・アナウンス用メモ 	<ul style="list-style-type: none"> ・国Ⅰ－1, 2 Ⅰ－3, 4 Ⅰ－4 6 Ⅰ－7, 8, 9 Ⅰ－10 Ⅰ－17 Ⅰ－18 Ⅰ－17 Ⅰ－20 Ⅱ－11 Ⅱ－14 Ⅲ－13 Ⅱ－14 Ⅰ－10

主な学習活動・内容	留意点	準備	関連内容
<p>3. プログラムを書く。</p> <p>(1) 自分の出る種目名を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ こうしん ○ リズム など <p>(2) プログラムを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の出る種目 ○ 自分の学部の種目 ○ 全体のプログラム 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 能力に応じてなぞり書きや模写をさせる。 ○ 簡単なかたかな等の書き方も練習させる。 ○ たて書きと横書きの両方とも経験させる。 ○ 字の大きさや配分等も考慮して書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かたかな表 ・プログラム用紙 	<ul style="list-style-type: none"> ・国Ⅲ－14 Ⅲ－13 Ⅲ－14 Ⅲ－15 Ⅳ－19 Ⅴ－23
<p>4. 案内状を書く。</p> <p>(1) 相手を決める。</p> <p>(2) 案内状の内容を話し合う。</p> <p style="padding-left: 2em;">日時・場所・内容等</p> <p>(3) 案内状を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 案内状を出す相手は家族や先生方など身近な人とする。 ○ 日時や場所等の未記入の案内状と正しい案内状とを比較させ、案内状に必要な内容を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・案内状 	<ul style="list-style-type: none"> Ⅲ－13 Ⅲ－15 Ⅳ－17
<p>5. アナウンスの練習をする。</p> <p>(1) まねて言う。</p> <p style="padding-left: 2em;">㊦「プログラム○番は○○部の○○です。」</p> <p>(2) 放送原稿を読む。</p> <p>(3) 実況放送の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 徒競走 ○ 団体種目など 	<ul style="list-style-type: none"> ○ アナウンスは運動会当日を想定して、大勢の人にわかりやすくするため、はっきりした発音でさせる。 ○ 原稿はできるだけ簡潔に表現したものを使い、読めない漢字にはふりがなをしておく。 ○ VTRや実際の活動に即して、躍動感を盛りあげるテンポで話させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マイク ・放送原稿 	<ul style="list-style-type: none"> Ⅱ－10 Ⅲ－9 Ⅳ－8 Ⅱ－5 Ⅲ－3 Ⅳ－2 Ⅴ－12
<p>6. 運動会の作文を書く。</p> <p>(1) 題を決める。</p> <p>(2) 中心に書くことを決める。</p> <p>(3) 書く順序を決める。</p> <p>(4) 文を書く。</p> <p>(5) 文を見直す。</p> <p>(6) 友達に発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ できるだけ一つのできごとにしぼって書かせる。 ○ 表現能力の豊かな子には、したこと、見たこと、感じたことなどを盛りこんで書かせる。能力によっては一行文をつないで作る共同作文としてもよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・原稿用紙 ・取材メモ紙 	<ul style="list-style-type: none"> Ⅳ－15～19 Ⅴ－18 Ⅴ－21 Ⅴ－22 Ⅴ－23




































題 材	お 使 い し よ う	買 い 物 ご っ こ	
学 部	小		
学年・段階	低	中 ・ 高	
月(時数)	10月(8)	10月(8)	
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 簡単な依頼の言葉を聞いて、お使いができるようにする。 ○ 要件を落とさずに簡単な伝言をし、買い物ごっこができるようにする。 ○ 買い物に必要な簡単な言葉が使えるようにする。 		
主な学習活動・内容	留 意 点	準 備	関 連 内 容
<p>1. お使い遊びをする。</p> <p>(1) 品物の名前を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 色, 形, 手触わり, 味など <p>(2) 提示された物と同じ品物を見付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 実物と実物 ○ 実物と模型 ○ 模型と模型 ○ 模型と絵カード ○ 絵カードと絵カード <p>(3) お使いをする。</p> <p>ア, りんごを取ってください。</p> <p>イ, りんごを赤い箱に入れてください。</p> <p>ウ, りんごを○君にあげてください。</p> <p>エ, りんごとみかんを取ってください。</p> <p>(4) お使いをした品物で遊んだり食べたりする。</p> <p>2. 買い物ごっこをする。</p> <p>(1) お店には, どんな品物があるか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ おもちゃ ○ 本 ○ くだもの 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもが使い慣れている物や名前をよく知っている身近な物を準備する。 ○ 最初は, 実物や模型からはじめ子どもたちがお使いのし方に慣れてきたら絵カードなどを使うようにする。 ○ 最初は, 指示を一つずつしお使いを十分行うようにする。また, 慣れてきたら, 場所や人を指示したり, 取る品物を増やしたりして聞き取る内容を次第に多くしていく。 ○ できない子どもには, 教師と一緒にやりながら, お使いのし方を身につけさせる。 ○ 必要に応じて, 「○を下さい。」「どうもありがとう。」などの言葉を使わせるようにする。 ○ お使いをした品物で遊んだり食べたりすることでお使いの楽しさを味わわせる。 ○ 8ミリや写真を見ながら, お店で売っている物を言わせたり, お店には看板があることに気づかせたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乗り物や動物や果物など ・ 実物 ・ 模型 ・ 絵カード 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国Ⅰ - 10 11 Ⅱ - 4, 5 7, 10 ・ 生・遊 Ⅱ - 1
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 8ミリ ・ 写真 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国Ⅰ - 10 Ⅱ - 5, 12, 14 Ⅲ - 11, 13

主な学習活動・内容	留意点	準備	関連内容
<p>(2) お店ごとに売っている品物を分ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ おもちゃや — 車・人形・ボールなど ○ くだものや — りんご・みかんなど <p>(3) お店づくりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 品物の名前カード ○ 値段のカード ○ 看板 <p>(4) 係を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ お客さん(買う人) ○ 店の人(売る人) <p>(5) 買い物をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 指示された物 ○ 自分で買いたい物 <p>(6) 買い物に必要な言葉の使い方を練習する。</p> <p>基本話型</p> <p>例 1. 店「いらっしゃいませ。」 客「これをください。」 店「はい。」 「どうもありがとうございます。ありがとうございました。」</p> <p>例 2. 店「いらっしゃいませ。」 客「〇を△ください。」 店「はい。」 客「いくらですか。」 店「×円になります。」 客「はい。」 店「どうもありがとうございます。ありがとうございました。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ できるだけ区別しやすいような物を準備し、種類別に分けやすいようにする。 ○ 子どもの能力に応じて、品物や看板などのカードをなぞり書き・視写・暗写させるようにする。 ○ 値段は、子どもたちの実態に応じてわかりやすいものにする。 ○ 多くの係を経験させるために、係を交代させたり、係りの種類を増やしたりする。 ○ 最初は、教師がお店の人になって、スムーズに買い物ができるようにする。 ○ 買い物をする時には、買う物(教師が依頼したもの)を店の人に言うようにする。また、言えない子どもには、指でさしたり紙に書かせたりする。 ○ 子どもの能力に応じて、基本話型を簡単にしたり、詳しくしたりする。 ○ 買い物のし方や買い物に必要な言葉の使い方は、繰り返し練習させ慣れさせる。 ○ あいさつなどの言葉についても必要に応じて指導する。 ○ できない子どもには、教師と一緒にやりながら買い物のし方など身につけさせる。 ○ 他の教科・領域との関連を図りながら取り扱うようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お店の看板 ・模型 ・カード ・油性ペン ・パス ・かご ・基本話型の表 	<ul style="list-style-type: none"> ・国Ⅱ - 15 17 18 19 21 Ⅲ - 14 15 Ⅰ - 10 13 Ⅱ - 4 7 10 Ⅲ - 5 8 9 ・生・遊 Ⅱ - 1 5 12 Ⅲ - 1 12

題 材	もしもしあのね	電話ごっこ	電話ごっこ	電 話	電話ごっこ	電 話
学 部	小	小	中	中	高	高
学年・段階	低	中・高	A	B・C	A	B・C・D・E
月(時数)	11月(8)	11月(8)	11月(12)	11月(12)	10月~11月(4)	10月~11月(4)
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ○ おもちゃの電話での遊びを通して、言葉のやりとりをすることに慣れさせる。 ○ 電話ごっこを通して、簡単なことなら電話で聞いたり話したりすることができるようにする。 ○ 電話の簡単な取り次ぎや伝言ができるとともに、相手や場に応じた話し方ができるようにする。 					
主な学習活動・内容		留 意 点		準 備	関 連 内 容	
1. あのねごっこをする。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 教師と一緒に ○ 友達同士で 2. 電話ごっこをする。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 糸電話を使ってする。 (2) 模擬電話を使ってする。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 教師と一緒に ○ 友達同士で 3. 電話を受ける。 <ul style="list-style-type: none"> (1) ベルが鳴ったら受話器を取る。 (2) 自分を名乗り、相手を尋ねる。 「はい～です。」 (3) 電話を取り次ぐ。 「ちょっと待って下さい。」 (4) 用件を聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ○ メモする 4. 電話をかける。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 受話器を持ってダイヤルをまわす。 (2) 相手を確認、自分を名乗る。 「もしもし～さんですか。」 「私は～です。」 (3) 用件を伝える。 5. 電話をかけあう。		<ul style="list-style-type: none"> ○ 身振りや絵などをもとに教師の方から身近な話題について「あのね」という言葉で話しかける。 ○ ままごとなどの場面で電話を使う場を設定して、電話での応対に慣れさせる。 ○ 話しかけるときは必ず「もしもし」という言葉かけをさせる。 ○ 相手の話は最後まで聞き、わからない時には聞き返させる。 ○ 受話器の持ち方や置き方についても留意する。 ○ 電話がかかったら近くの人にかわってもらったり、メモをとったりするなど、能力に応じた方法で受けさせる。 ○ 数字のわからない生徒は、教師と一緒にダイヤルをまわし、電話をかけることの抵抗を和らげる。 ○ いろいろな相手や用件を設定して、言葉使いの練習をさせる。 ○ 発音、速さ、声の大きさなども注意して話させる。 ○ 必要に応じて、公衆電話も取り扱う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・糸電話 ・模擬電話 ・校内電話 ・メモ用紙 ・電話番号表 ・公衆電話 	<ul style="list-style-type: none"> ・国Ⅰ－10 Ⅲ－2 6 Ⅲ－9 Ⅳ－9 Ⅴ－9 Ⅱ－7 Ⅲ－5 Ⅳ－17 Ⅳ－7 Ⅳ－9 Ⅴ－8 9 Ⅲ－8 9 Ⅴ－5 ・社Ⅴ－3 Ⅳ－3 	

題 材	まねて書こう	年 賀 状			はがきや手紙	いろいろな書式
学 部	小	小	中	高	中	高
学年・段階	低	中・高	A	A・B	B・C	C・D・E
月(時数)	12月(6)		12月(9)		12~1月(15)	
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年賀状になぐり書きをして書くことを楽しむことができるようにする。 ○ 丁寧な文字で、はがきや手紙を書くことができるようにする。 ○ 簡単な履歴書や証明書などの項目の意味が分かり、書写できるようにする。 					
主な学習活動・内容	留 意 点			準 備	関 連 内 容	
1. なぐり書きをする。 2. 名前を書く。 (1) 名前のカードを選ぶ。 (2) 文字カードで名前をつくる。 ㊦㊧㊨ (3) 名前を書く。 ○ なぞりがき ○ 模 写 ○ 暗 写 3. 手紙や葉書きなどを見分ける。 ○ 絵葉書 ○ 年賀状 ○ 手紙 など 4. 年賀状を書く。 ○ 自分や相手の住所・氏名 ○ 郵便番号 ○ 慣用句 「あけましておめでとう ございます。」	<ul style="list-style-type: none"> ○ 名前は教師が手を添えて書かせ自由になぐりがきを子どもにさせる。 ○ カード選びや文字カード選びはしるしや見本を手がかりに探させ慣れてきた段階で文字だけの選択をさせる。 ○ 名前を書けるようになったら、用紙のマス目や行間を小さく細くして、その枠内に書かせる。 ○ 能力に応じて、少しずつ漢字を取り入れて名前を書かせる。 ○ 今までにももらったことのあるものを持ち寄せ、絵や似たような文字、形などをもとに分類させ、いろいろな通信文に気づかせる。 ○ 住所やあて名など難しい部分は代筆し、できるところから書かせていく。文字の大きさや字の配置等についても配慮しながら書かせる。 ○ 能力によっては用筆を変えて書かせる。 ○ 投かん等については他教科・領域との関連を図る。 			<ul style="list-style-type: none"> ・用紙 ・文字カード ・名前カード ・用紙 ・絵葉書 ・年賀状 ・手紙 ・葉書きなど ・年賀状 ・名簿 ・サインペンや筆 	<ul style="list-style-type: none"> ・国Ⅰ-21 Ⅱ-15 Ⅱ-16 Ⅰ-18 Ⅰ-19 Ⅰ-20 Ⅱ-17 Ⅱ-18 Ⅱ-19 Ⅱ-20 Ⅲ-17 Ⅱ-11 Ⅱ-14 Ⅱ-21 ・生・交 Ⅱ-8 ・国Ⅲ-14 Ⅲ-15 Ⅲ-17 V-24 	

主な学習活動・内容	留意点	準備	関連内容
<p>5. 葉書きや手紙を書く。</p> <p>(1) 受取人の住所・氏名を書く。</p> <p>(2) 差出人の住所・氏名を書く。</p> <p>(3) 郵便番号を調べる。</p> <p>(4) 書く内容を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 近況報告 <p>(5) 文を書く。</p> <p>(6) 手紙文の形式を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 時候のあいさつ ○ 主文 ○ 後付けなど 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 誤字や脱字があると配達に支障があることを知らせ、いつも正確に書くように留意する。 ○ 郵便番号簿の利用のしかたをおさえておく。 ○ 日付や名前を書く位置など、便せんの使い方にもふれる。 ○ 書いた葉書きや手紙は投かんさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・葉書き ・便せん ・封筒 ・郵便番号簿 ・切手 	<ul style="list-style-type: none"> ・国Ⅲ－18 Ⅳ－18 Ⅳ－19 Ⅳ－20 Ⅲ－12 ・生・交 Ⅲ－9
<p>6. いろいろな書式の書類を書く。</p> <p>(1) いろいろな書式を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 預入票、払戻票 ○ 申し込み書、諸証明書 ○ 履歴書、身上書 ○ 領収書、伝票 ほか <p>(2) いろいろな書式を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 住所、氏名 ○ 日付 ○ 金額 ほか <p>(3) いろいろな書式を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 住所、氏名、生年月日 ○ 本籍地 ○ 家族構成 ○ 趣味、特技ほか 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実習先で使われる書式や日常生活でよく利用されている書式を中心に集める。 ○ 用途別に分類させ、その必要性や使用法を考えさせる。 ○ それぞれの書式の用途、使う場所等から、必要な項に気づかせる。 ○ ㄥやㄏの意味、太枠で囲まれている所など、記入に必要なことを知らせる。 ○ 記入する項やその場所等を確認してから書かせる。 ○ 履歴書や証明書等については、あらかじめ一人ひとりの見本を準備し、正しく模写させる。 ○ 諸証明書等についてはその申請先や提出期限等にもふれておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・預入票 ・払戻票 ・諸証明書 ・履歴書用紙ほか ・諸書式 	<ul style="list-style-type: none"> ・国Ⅳ－12 Ⅲ－13 Ⅲ－12 Ⅲ－13 Ⅴ－14 Ⅴ－25 Ⅳ－19

題 材	絵カードで遊ぼう			
学 部	小		中	
学年・段階	低		A・B・C	
月(時数)	1月(4)		1月(6)	
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身近にあるものの色や形の異同がわかり、具体物や絵と名前を結びつけることができるようにする。 ○ かるたとりをして、ひらがなや簡単な語句を読むことができるようにする。 ○ かるたづくりをして、簡単な語句や短い文を書くことができるようにする。 			
主な学習活動・内容	留 意 点	準 備	関連内容	
<p>1. いろいろな形や色、動物や乗り物などの絵カードで遊ぶ。</p> <p>(1) 同色、同形のカードを集める。</p> <p>(2) 教師の言ったカードをとる。</p> <p>2. かるたとりをする。</p> <p>(1) ひらがなの一文字カードでかるたとりをする。</p> <p>例  -   -  など</p> <p>(2) ひらがなの二文字くらいのカードでかるたとりをする。</p> <p>例  -   -  など</p> <p>(3) 読みふだを読んで、絵ふだをとる。</p> <p>(4) 絵ふだを並べ、読みふだを合わせる。</p> <p>3. かるたづくりをする。</p> <p>(1) 簡単な語句や短い文を考えて、かるたをつくる。</p> <p>例    うれしいな</p> <p>           </p> <p>           </p> <p>(2) かるたとりをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 色や形の名前を言ったり、触って形を調べたりして、同色、同形のカードを集めるようにする。 ○ 子どもたちがよく知っている動物や乗り物のカードを使って、カード遊びへの興味・関心を持たせる。 ○ ひらがな一文字や二文字くらいのカードを準備し、かるたとり楽しく参加できるようにする。 ○ 子どもの能力に応じて、絵ふだの枚数を少なくしたり、知っている文字のカード(自分の名前)だけ並べたりしてかるた取りをさせる。 ○ 絵ふだに書いてある文字に気をつけながらさせる。 ○ ひらがなを正しく読めるように繰り返し練習させる。 ○ 読みふだの文は、身近にある事などから考えさせるようにする。また、絵ふだを準備しておき、それに合う言葉を考えさせてもよい。 ○ 子どもの能力に応じて、なぞり書き、視写、暗写をさせる。 ○ 子どもたちがつくったかるたで遊ばせ、つくった喜びを味わわせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同色のカード ・同形のカード ・動物や乗り物などのカード ・一文字や二文字のかるた ・見本のかるた ・白表紙 ・パス ・油性ペン 	<ul style="list-style-type: none"> ・国Ⅰ - 14 18 Ⅱ - 4 Ⅰ - 18 20 Ⅱ - 4 11 Ⅲ - 9 Ⅰ - 20 Ⅱ - 11 14 15 17 18 19 21 Ⅲ - 14 15 	

題 材	劇遊びをしよう			
学 部	小	小	中	高
学年・段階	低	中・高	A・B・C	A・B・C・D・E
月(時数)	2月(8)	2月(8)	2月(12)	2月(12)
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達と一緒に、レコードやテープに合わせて劇遊びができるようにする。 ○ 登場人物や話の筋などがわかるようにする。 ○ 感情をこめて、簡単なせりふを言ったり、動作したりすることができるようにする。 			
主な学習活動・内容	留 意 点	準 備	関連内容	
<p>1. 劇遊びをする。</p> <p>(1) 劇遊びの内容を聞く。</p> <p>(2) まねっこをする。</p> <p>(3) 配役をする。</p> <p>(4) みんなの前で表現する。</p> <p>2. 簡単なせりふのある劇をする。</p> <p>(1) 脚本を読む。</p> <p>(2) あらすじを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 登場人物 ○ 話の筋 ○ 感想 など <p>(3) 配役をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 役の特徴 <p>(4) 劇をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 読み合わせ ○ 動作化 ○ 登場人物の気持ち など <p>3. 学習のまとめをする。</p> <p>(1) VTRや写真を見る。</p> <p>(2) 楽しかったこと、難しかったこと、感心したことなどを、発表したり、簡単な文に書いたりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵本や紙芝居を見せたり、ペープサートや指人形で芝居をしてみせたりして、劇の内容を知らせる。 ○ せりふの長さや言葉、身体表現は、子どもの実態により考慮する。 ○ 登場人物や話の展開を予想させ、読むことへの意欲を高める。 ○ さし絵や状況画などを見せて、あらすじや感想を発表させる。 ○ 配役の絵や文字カード、せりふカード等を用意し、自分のせりふや劇の流れに慣れさせる。 ○ 登場人物の気持ちを話し合いながら、その時の動作や表情を工夫させる。 ○ 小道具や衣装を準備して、楽しみながら、発表できるようにする。 ○ 劇を見る時の態度にも注意する。 ○ みんなの前で、発表できたという成就感を味わわせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵 本 ・紙芝居 ・ペープサート ・指人形 ・レコード ・カセットテープ ・脚 本 ・状況画 ・配役カード ・せりふカード ・小道具 ・衣 装 ・VTR ・写 真 ・用 紙 ・鉛 筆 な ど 	<ul style="list-style-type: none"> ・生・遊 I - 3 II - 2 ・国 I - 2 II - 2 ・音 II - 6 III - 5 6 ・国 I - 16 II - 3 9 11 III - 7 10 IV - 1 V - 1 II - 17 III - 15 IV - 15 V - 18 	

題 材	何でも書こう	文 集	一年間の思い出	
学 部	小		中	高
学年・段階	低	中・高	A・B・C	A・B・C・D・E
月(時数)	3月(4)	3月(4)	3月(6)	3月(6)
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ○ なぐりがき, 形がき, 線がきなどをして, かくことに興味を持てるようにする。 ○ なぞりがき, 視写, 暗写をして, 簡単な語句や短い文を書くことができるようにする。 ○ 一年間経験したことや心に残っていることを, 順序だてて書くことができるようにする。 			
主な学習活動・内容		留 意 点	準 備	関連内容
1. 何でもかきたいものを書く。 (1) なぐりがきをする。 (2) 形がきや線がきをする。 ○ 型 板 ○ ぬり絵 ○ なぞりがき		<ul style="list-style-type: none"> ○ いろいろな色のフェルトペン, 鉛筆, クレパスなどを準備し, 好きなものが, 自由にかけるようにする。 ○ 一年間のでき事がわかるような型板やぬり絵を準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フェルトペン ・鉛 筆 ・クレパス ・画用紙 ・半 紙 ・型 板 	<ul style="list-style-type: none"> ・国Ⅰ-2 ・図Ⅰ-3 Ⅱ-1 2
2. 簡単な語句を書く。 (1) なぞり書きをする。 (2) 視写をする。 (3) 暗写をする。		<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの腕, 手, 指の動き, 目と手の協応の実態に応じて, 字の大きさ, 文字の組み合わせを考慮する。 ○ 「横に長く」「まるかいて」等, リズムをつけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ぬり絵 ・絵カード ・文字カード 	<ul style="list-style-type: none"> ・国Ⅱ-15,16 17,18 19,20 21 Ⅲ-14
3. 一年間の思い出を発表する。 (1) 経験したことを発表する。 (2) 一語文で書く。 (3) 順序立てて書く。 (4) 詳しく書く。 (5) 文集を作る。 (6) 発表する。		<ul style="list-style-type: none"> ○ VTRや8ミリを見せ, 一年間の行事や学習を思い出させる。 ○ 経験したことや事実を過去形で, 順序立てて書くことから始め, 徐々に自分の気持ちや心に残ったことも書けるように促す。 ○ 句点や読点の使い方, 長音, 拗音, 促音, はつ音, 助詞の書き方や使い方にも注意させる。 ○ 鉛筆の持ち方や姿勢に留意する。 ○ 一人ひとりの思い出の発表では, 心情面を大切にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・VTR ・8ミリ 	<ul style="list-style-type: none"> 国Ⅱ-5 Ⅲ-3 15,16 17,18 Ⅳ-4 15,16 18,19 20 Ⅴ-4, 18,19 20,22 23